

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570103087		
法人名	有限会社 旭ケアサービス		
事業所名	グループホーム太陽	ユニット名	2階
所在地	宮崎市橘通東1丁目5番2号		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&liyosyoCd=4570103087-00&PreCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成24年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

～ゆったり・のんびり・一緒に楽しく～
 ・各種サービスの利用により、利用者の方の「社会的孤立感の解消」「心身機能の維持」「生活の質の向上」を図ります。・家庭的な雰囲気の中、日々尊厳と穏やかで、安らぎのある生活が送れるよう努力しています。・可能な限り自立した生活が送れるよう支援しています。・医療面での連携が充実しています。また、医療連携体制加算を整備し、重度化や終末期に向けたケアにも取り組んでいます。・自治会・地域振興会・消防団・キャラバンメイト、地域行事への参加等、地域との関わりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「その人らしさを大切に」を職員が一丸となって、利用者一人ひとりの思いに心を向け、持つ力の可能性を信じ、住み慣れた地域で利用者自身が、安心して暮らし続けられるかわりを大切に支援している。行政や地域包括支援センターとの連携が密に図られ、運営推進会議を有意義に生かし、ホームの困難事例に協働で対応している。センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を導入し、「認知症ネットワークケア推進事業」に積極的に参加し、事例報告を行い、全職員で取り組んでいる。重度化や終末期のあり方については、看護師と24時間連絡体制を整えており、医療連携で職員、本人、家族と情報交換を行い、対応方針の共有を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の運営理念を作成し、全ての職員と共有している。見やすい場所に掲示し、毎朝の申し送り時に理念の唱和を行い、実践につなげている。	開設時より、地域密着型の視点を盛り込んだ理念となっており、常に安心安全を心がけ、一人ひとりの思いに寄り添いながら、日々の実践に向けて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や出勤時には、ご近所の方へ挨拶を行っている。施設として、自治会や旭通振興会へ入会している。施設長が地元消防団へ入団しており、地域の方へ事業所を周知頂いている。管理者が、キャラバンメイトとして地域活動に参加している。	自治会や地域振興会にも加入し、地域の情報交換も日常的に行われ、相互交流ができています。職場体験受け入れやギター演奏、歌謡ショー等のボランティア来訪もあり、管理者は小学校等にキャラバンメイト活動を行うなど積極的に出向き、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成23年12月に当施設にて、地域の方を対象にした「認知症サポーター養成講座」を開催。キャラバンメイトの地域活動にも参加している。運営推進会議を通じて、地域の情報交換・地域貢献についてご意見を頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、報告・相談を行い、ご意見を基にサービスの向上に努めている。	定期的に利用者やホームの現況報告をし、今後の取り組み課題などに意見やアドバイスをもらうなど、双方向的な話し合いをしている。地震・津波対策や職員スキルアップ講習開催などについての意見が、サービス向上に生かされていた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課へ事故報告、改善策について随時報告を行い、不明な点についても随時相談を行っている。また、管理者は、「宮崎市認知症ネットワークケア推進事業」に、推進員として参加し、サービスの質の向上並びに協力関係作りに取り組んでいる。	管理者は、行政機関に直接出向いたり、電話等でホームの現況を伝え、手続きや運営上の問題点等を相談し、指導助言を受けるなど、積極的に連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束は行わない」ことへの理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束および玄関施錠もしてはいない。職員は、「身体拘束をしないケアの重要性」を理解し、寄り添うケアに取り組んでいる。	利用者の行動や態度をさえぎる言葉遣いも身体拘束にあたることを認識し、更なるケアサービスの向上を期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の研修会等の参加や月に一度のミーティングの際に勉強会を行うなど、法の理解と虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在3名の方が、後見人制度を利用されている。利用申請段階から市役所・地域包括支援センターと連携し、対応した実績もある。必要時には、随時話し合いが行われている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、必ず重要事項を読み合わせし、納得頂いてから契約書を作成している。2部作成し、家族と施設で1部ずつ保管している。また、解約時は話し合いを行い、解約届を頂いている。料金等改定の際は、家族会で説明・相談の上、後日、書面にて同意書を頂いている。その他、個々に係る負担については、随時相談の上決定し、契約書や同意書を頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を設置し、いつでもご意見を頂けるように配慮している。年に2回、家族会を開催し、ご意見を頂くようにしている。面会の際は、職員へ気軽に話していただける雰囲気作りに努めている。契約書に、「外部申立機関」について記載し、説明している。ご相談やご意見があった場合は、迅速に対応している。		運営推進会議、サービス担当者会議、家族会などにおいて、ホーム行事を大切な機会とし、意見等を表明しやすい環境となっており、サービスに反映させる仕組みとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、その都度聞き、運営に反映させている。また、毎月のミーティングでも意見を聞く場を設け、職員全員で話し合い、運営に反映させている。		月1回の職員会議や個別面談などを通して、代表者や管理者は、職員の意見や提案、要望を聞き、業務の改善に反映させている。職員とは、意見や思いを気兼ねなく言える関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や個人面談を通じ、努力や実績、勤務状況について評価を行い、目標を設定したり、意欲を持って働けるよう努めている。また、「キャリアパスに関する計画書」を整備し、資格取得支援を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修開催の情報を提供し、受講希望者にはシフト調整を行い、参加しやすい環境を整えている。また、受講した内容については、報告書やミーティング等で発表の場を設け、受講していない職員へも情報提供している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会等へ積極的に参加し、同業者との意見交換を行っている。講習会等で得た知識を毎月のミーティングの際に勉強会として、他の職員とも情報を共有し、サービスの質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人から得られる場合は本人より、それ以外は、入居者の生い立ち等の情報を、ご家族やこれまでの施設等より、「情報提供書」として頂いて理解に努めている。また、ご家族にはセンター方式での情報収集にも協力頂いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった際は、迅速に利用者の状況確認を行い、面談等を実施している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況確認を行い、面談等を実施し、必要な場合は、他の施設の紹介等を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重しながら、積極的に家事等に参加頂いたり、職員を含めた団欒等でのコミュニケーションを大切にし、家族的な関係を目指している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やケアカンファレンスの際には、本人の状況を報告・相談し、共に情報を共有しながら、本人を支える協力を頂いている。また、施設行事へ参加頂いたり、必要時には電話や面会依頼を行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の親類や友人の面会の際にも、本人とゆっくり話が出来るよう支援している。また、馴染みの場所への外出等は家族にもご協力頂き、個別に行っている。	友人・知人に便りや電話の取り継ぎをしたり、なじみの店のショッピングや美容室通いなど、一人ひとりの生活習慣が継続できるよう配慮がなされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々のペースを大切にししながら、行事やレクリエーション等への参加、食事やお茶など、一緒の時間を過ごす事で、お互いの関係が築けるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もその家族や転居先からの相談には、随時対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々、本人との関わりの中から、気付くよう努めている。定期的にケアカンファレンスを行い、本人の意思やご家族の意向を把握し、本人本位のケアに努めている。		職員は、回想法や一人ひとりに合った療法等を通して真意を押し量り、本人や家族とコミュニケーションを図り、多くの視点から情報収集をし、本人本位の把握に努めている。センター方式（認知症の人のためのケアマネジメント方式）のシートを使用し、更新時には思いや意向を再確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者本人から得られる場合は本人より、それ以外は、入居者の生い立ち等の情報を、ご家族やこれまでの施設等より、「情報提供書」として頂いて理解に努めている。また、ご家族にはセンター方式での情報収集にも協力頂いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を始め、全職員で日常の様子を把握し、主治医の往診（1回/月・随時）や、訪問看護（1回/週）による健康観察で、総合的な状況を把握している。また、勤務交代時には申し送りを行い、現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、必ずケアカンファレンスを開催し、本人・家族・担当職員・計画作成担当者の話し合いを反映させたケアプランを作成している。また、必要時には、医師・看護師・地域包括支援センター等にも参加頂いている。		アセスメント・モニタリング・サービス担当者会議を行う中で、日々の記録、職員の気づきや家族の意向などの情報を蓄積し、介護計画に反映させている。医療連携の下、利用者の状態変化に応じた随時の見直しもされている。職員は、介護計画に沿って、日々のケアを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を活用し、情報の共有や充実に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時の付添や外出等、ご家族の状況・要望に応じ、事業所でも対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、各関係機関やボランティアと協力しながら支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月かかりつけ医の往診があり、適切な医療が受けられるよう支援している。また、往診対応外のかかりつけ医については、受診時に特変事項等について情報提供を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師や訪問看護と連携を取って、健康管理や医療活用の支援をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、情報提供書と直接伺い情報の共有を行い、安心して過ごせるよう配慮している。また、退院時には、ケアカンファレンスに参加し、退院後のケアについても相談している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアカンファレンスや家族会で、重度化・終末期のあり方や事業所でできることについて、本人や家族、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有し、可能な限り希望に添えるよう関係者と協力し、支援している。		重度化・終末期のあり方について、ホームができることを本人と家族に丁寧に説明し、相談に乗っている。訪問看護師や医療関係機関とも連携し、状態変化に応じて、本人、家族、職員と話し合いながら、対応方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のミーティング等で、急変や事故発生時に備え、対策等を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団や北消防署にも協力頂き、避難訓練を実施している。また、避難勧告の際の避難場所についても、ご家族・職員で周知徹底している。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳と権利について理解し、それを厳守できるよう、言葉かけや対応について、日々取り組んでいる。		一人ひとりの尊重、利用者への言葉遣いや対応方法を職員に徹底し、職員は理解できている。	職員の不用意な言葉遣いやなれ合いの対応等を無意識の内にしていないか、いまいちど振り返り、職員で話し合う機会を持ち、利用者との信頼関係を更に深めることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞いたり、自己決定できるような機会を作り、個々に合わせた説明や言葉かけを行いながら支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを理解し、把握するよう努め、それぞれのペース・希望を大切にしながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室等がある方は、ご家族に協力を頂き、行かれている。それ以外は、地域の理容店の訪問や地域の美容室へお連れする等、支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の旬のものを取り入れた献立やお祝い、行事の際の食事の充実、利用者の好みへの配慮を行っている。利用者の体調等を考慮し、無理のない程度に、準備や片付けの協力を頂いている。またレクリエーションを兼ねた調理への参加を行っている。		季節の食材を使用して、バランスの取れた献立となっている。一部外注の食事提供となっているが、おやつ類は利用者と一緒に作り、食べている。後片づけの食器洗いや台ふきは、希望者が多く、当番制にするなど、楽しく作業する光景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じて食べる量や栄養バランス、水分量等を考え、支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、歯磨き・うがいをを行い、入れ歯の方は、夜間に洗浄剤での洗浄を行っている。また、提携歯科医の往診や歯科福祉センターへの受診等を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録等で、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や言葉かけを行い、自立に向けた支援を行っている。		排せつチェック表を活用し、パターンを把握して、適宜トイレ誘導をすることにより、リハビリパンツ、パット、布パンツへと自立に向けて支援している。また、トイレ使用後は、利用者の健康状態の確認やトイレ周辺の清潔等を職員がさりげなく気配りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分補給や食事の配慮、運動等への働きかけを行っている。また、排泄チェックを行い、必要に応じ内服調整を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	対応可能な限り、本人の希望に沿って、入浴を行っている。		入浴時間は、隔日の午後と設定されているが、必要に応じて対応することもある。入浴を拒否する利用者には、「誰にも内緒だけど今ならタイムサービス中ですよ」と耳打ちするなど、一人ひとりに合った言葉掛けをして、入浴を促す工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースを大切に支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法・用量について理解し、情報共有し支援している。症状の変化については、随時、主治医・看護師へ申し、速やかに対応している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に沿って支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、散歩や買い物へ本人の希望に沿って出かけられるよう支援している。また、普段行けないような場所でも、本人の希望を把握し、ご家族に協力頂きながら、出かけられるよう支援している。		家族の協力で、フローランテ宮崎や日南海岸へのドライブに出掛けている。また、利用者の希望があれば、買い物や散歩など、柔軟な姿勢で対応できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額については、本人が所持している。ご家族より預ったお金は、職員が管理しているが、買物等の際は本人が所持し、使えるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、行えるよう支援している。お葉書や毎月発行の「太陽だより」に言葉を添えて頂く等、支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を行い清潔にし、その季節に応じた飾り付けを利用者と一緒に行い、共有空間に飾り付けたりしている。	共用空間は、利用者手作りの折り鶴や作品、写真等が展示されており、温もりのある家庭的な雰囲気を醸し出している。不快音や異臭もなく、清潔保持も行き届き、ソファでゆったりとくつろぐ利用者もいた。トイレも分かりやすく大きく表示されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファや畳の間を配置し、何時でも気軽に過ごせる工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のご希望に応じて、馴染みの物を持ちこんでいただいたり、飾り付けや配置等を行っている。	居室には、利用者が長年愛用しているタンスや三面鏡などを持ち込んだり、また、仏壇を備えた部屋もあった。物を置かないすっきりした部屋や家族の写真、自作の作品を飾ったりする部屋があるなど、一人ひとりの利用者が、居心地良く過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を把握し、必要な場合は、手すりやシルバーカー、杖等を利用しながら、安全で自立した生活が送れるよう支援している。			